

令和5年3月31日

世田谷区立八幡中学校
校長 山田 勝基 様

世田谷区立八幡中学校
学校関係者評価委員会
委員長 田中 彰夫

令和4年度世田谷区立八幡中学校 学校関係者評価結果について
(前年度の改善方策について実行した改善結果を含む)

本年度の学校関係者評価の結果を分析・検討し、並びに自己評価の報告を受け、以下のようにとりまとめましたので、ご報告いたします。

今回の学校関係者評価委員会の報告を次年度の学校経営にご活用いただき、八幡中学校がなお一層発展されることを委員会一同祈念いたします。

1 調査結果の概要

今年度も保護者、地域、生徒へのアンケートを実施したが、回収方法の変更に伴い、保護者からの回収率は前年度の78%から大きく落ち込んだ。回数率は保護者、地域、生徒それぞれ、36%、56%、82%であった。

今般も、各設問回答から『肯定的評価』(A「とても思う」・B「そう思う」と『否定定期評価』(C「あまり思わない」・D「思わない」及びE『分からない』)に分けてその割合を比較してみると、おおむね『肯定的評価』が多かった。また経年変化については、コロナ禍で今年度も厳しい評価の項目も一部あるものの、もともと肯定的評価の高い項目においてもさらに評価ポイントが伸びた項目や、厳しい状況ながらも改善が見られる項目などがあり、学校側の継続的な努力の成果があらわれていると言える。

昨年度の学校関係者評価の結果を受け、本年度の改善・努力を行った項目について考察し、本年度どのように評価されているのか、結果とともに分析する。また、昨年の評価に比べ数値的に低くなった項目や『わからない(E)』の比率の高かった項目については、内容をよく吟味し、さらに改善・努力することが引き続き望まれる。

2 調査結果の詳細

(1) 保護者の評価

①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

i) 全44項目（共通項目）中

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	0項目
5割を超えているもの	5項目
6割を超えているもの	6項目
7割を超えているもの	14項目
8割を超えているもの	15項目
9割を超えているもの	4項目

※参考 昨年度（R3年評価）44項目

5割を超えなかったもの	5項目
5割を超えているもの	5項目
6割を超えているもの	11項目
7割を超えているもの	14項目
8割を超えているもの	7項目
9割を超えているもの	2項目

ii) 9割を超えている項目

6-(5)「本校は、近隣の(幼稚園)小・中学校で構成する「学び舎」の(幼稚園)小学校に行ったり、(幼児)小学生が来たりする機会がある」90.0%

8-(1)「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」93.0%

12-(2)「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」95.0%

13-(5)「八幡中学校は「確かな学力を育成する学校として、(中略)学習する機会を提供していることを一つでも知っている」93.5%

②昨年度対比（比較できる質問項目数「44項目」）

i)『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

＜増加（向上）した項目数＞37項目、＜減少（悪化）した項目数＞7項目

＜ベスト2＞

6-(5)「本校は、近隣の(幼稚園)小・中学校で構成する「学び舎」の(幼稚園)小学校に行ったり、(幼児)小学生が来たりする機会がある」54.6ポイント

1-(1)「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業をしている。」23.8ポイント

＜ワースト2＞

6-(4)「本校の教育活動は、子どもの成長につながる。」-19.6ポイント

6-(6)「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」-7.9ポイント

ii)『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

＜減少（改善）した項目数＞24項目、＜増加（悪化）した項目数＞20項目

＜ベスト2＞

6-(5)「本校は、近隣の(幼稚園)小・中学校で構成する「学び舎」の(幼稚園)小学校に行ったり、(幼児)小学生が来たりする機会がある」-18.0ポイント

10-(2)「私は、学校行事、PTAや地域主催の行事などにすすんで協力している。」-10.3ポイント

<ワースト2>

6-(4)「本校の教育活動は、子どもの成長につながる」14.0ポイント

5-(2)「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」7.7ポイント

(2) 地域の方の評価

①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

i) 全15項目中『肯定的評価』

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの 1項目

5割を超えているもの 1項目

6割を超えているもの 2項目

7割を超えているもの 2項目

8割を超えているもの 6項目

9割を超えているもの 3項目

※参考 昨年度（R3年評価）15項目

5割を超えなかったもの 0項目

5割を超えているもの 2項目

6割を超えているもの 2項目

7割を超えているもの 1項目

8割を超えているもの 5項目

9割を超えているもの 5項目

ii) 9割を超えている項目

1-(1)「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」100.0%

3-(1)「学校からのお知らせや（学校だより）などにより、学校の様子がわかる。」93.0%

6-(1)「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」100.0%

②昨年度対比（比較できる質問項目数「15項目」）

i)『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

<増加（向上）した項目数>7項目、<減少（悪化）した項目数>8項目

<ベスト2>

3-(3)「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がよくわかる」10.5ポイント

5-(1)「地域の人や施設を教育活動に活かしている」9.4ポイント

<ワースト2>

3-(4)「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている」-23.8ポイント

4-(1)「学校の重点目標が明確である」-17.1ポイント

ii)『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

<減少（改善）した項目数>4項目、<増加（悪化）した項目数>10項目、<変化なし>1項目

<ベスト2>

2-(1)「学校行事の内容は充実している」-6.0ポイント

6-(1)「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」-3.0ポイント

<ワースト2>

5-(2)「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」13.0ポイント

7-(1)「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協力して子どもを育てている。」

12.0ポイント

(3) 生徒の評価

①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

i) 全34項目中『肯定的評価』

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	2 項目
5割を超えているもの	2 項目
6割を超えているもの	4 項目
7割を超えているもの	9 項目
8割を超えているもの	14 項目
9割を超えているもの	3 項目

※参考 昨年度（R2 年評価）33項目

5割を超えなかったもの	2 項目
5割を超えているもの	1 項目
6割を超えているもの	2 項目
7割を超えているもの	12 項目
8割を超えているもの	15 項目
9割を超えているもの	1 項目

ii) 9割を超えている項目

1-(1)「先生は、課題について、自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中でとっている。」93.0%

1-(3)「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」90.0%

2-(1)「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」93.0%

②昨年度対比（比較できる質問項目数「33項目」）

i)『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

＜増加（向上）した項目数＞19項目、＜減少（悪化）した項目数＞10項目、＜変化なし＞1項目

＜ベスト2＞

6-(5)「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」17.2ポイント

7-(1)「部活動は、楽しい。」10.0ポイント

＜ワースト2＞

4-(1)「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について考え行動している」

－14.4ポイント

8-(1)「朝の読書活動をすることで、気持ちを落ち着かせることができる。」－6.8ポイント

ii)『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

＜減少（改善）した項目数＞15項目、＜増加（悪化）した項目数＞15項目、

＜ベスト2＞

7-(1)「部活動は、楽しい。」－14.2ポイント

1-(3)「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」－5.9%

＜ワースト2＞

8-(1)「朝の読書活動をすることで、気持ちを落ち着かせることができる」10.4ポイント

4-(1)「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について考え行動している」

8.0ポイント

3 分析に関するコメント

(1) 学習指導について

①保護者の評価

- 当該4項目全てで、肯定的評価は前年度に比べ増加し、昨年度 28～40%であった「わからない」が8～26%に減少している。昨年度に比べ授業の状況を保護者が把握していると考ええる。
- 1-(1)「子どもが考えることや、課題を解決することを大切にしたい授業をしている」の肯定的評価は、前年度 55%から今年度 79%と大きく増加し、「わからない」が前年度 31%から今年度 8%と大きく減少している。
- 1-(2)「黒板の書き方やプリントなどを工夫している」の肯定的評価は、前年度 48%から今年度 56%と増加し、「わからない」が前年度 40%から 26%に大きく減少している。
- 1-(3)「考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価は、前年度 64%から今年度 81%と大きく上昇している。
- 1-(4)「映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価は、前年度 52%から今年度 63%と大きく増加し、否定的評価は、今年度 16%、「わからない」は 21%である。

②生徒の評価

- 当該5項目全てで、生徒全体の肯定的評価は、前年度同様 75%以上で高く、1-(5)を除いて 85%以上である。
- 1-(1)「先生は、課題について、自分で考えたり友人と考えたりする時間を授業の中でとっている」の肯定的評価は、前年度 89%から今年度は 93%とさらに増加している。
- 1-(2)「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」の肯定的評価は、前年度同様 87%で変わらず高評価である。
- 1-(3)「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」の肯定的評価は、前年度 82%から今年度は 90%とさらに増加している。否定的評価は、現 2、3 年生が 1、2 年生であった昨年度と比較すると、現 2 年生は 19%から 18%に、現 3 年生は 10%から 4%に減少している。
- 1-(4)「先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価は、前年度 82%から今年度は 86%に増加している。
- 1-(5)「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している」の肯定的評価は、前年度 82%から今年度 77%に減少している。現 2 年生が 1 年生であった昨年度と比較すると、現 2 年生は 83%から 75%に、現 3 年生が 1 年生、2 年生の一昨年度および昨年度と比較すると、78%、77%、71%と学年を経るごとに減少しており、(1)～(4)の「授業に関する評価」と(5)「評価のわかりやすさ」の差が開いている。

③保護者と生徒の評価の比較

- 学習指導についての共通項目においては、保護者と生徒の両方で肯定的評価の割合が高いが、例年同様に保護者の方が生徒の評価より低い傾向である。しかし、その差は、前年度 30%前後から今年度は 10～20%程度に減少している。

(2) 生活指導について

①保護者の評価

- 当該2項目とも肯定的評価は70%以上で前年度より増加している。
- 2-(2)「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子供が理解している。」の肯定的評価は、前年度76%から今年度は86%と大きく増加している。

②地域の評価

- 「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」の肯定的評価は100%である。

③生徒の評価

- 当該3項目全てで、生徒全体の肯定的評価は80%以上である。
- 2-(1)「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」の生徒全体の肯定的評価は、前年度89%から今年度は93%と増加している。
- 2-(2)「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している」の肯定的評価は、1年生で86%、2年生で85%、3年生で73%と学年を経るごとに減少している。
- 2-(3)「私は、先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる」の肯定的評価は、1年生で88%、2年生で78%、3年生で73%と学年を経るごとに減少している。

④保護者と地域と生徒の評価の比較

- 「生徒の行動」についての肯定的評価は、地域と生徒全体で100%と93%であり、いずれも前年度同様に肯定的評価の割合が多い。
- 「生徒の理解」についての肯定的評価は、前年度の保護者と生徒で、76%と83%で生徒の方が多かったが、今年度は86%と81%で保護者の方が多くなり、評価が逆転している。行動についての評価と合わせると、学年が上がると生徒のルールに対する意識的な理解が定着し無意識にルールを守った行動がとれているのではないかと推察する。

(3) 学校行事について

①保護者の評価

- 当該3項目全てで肯定的評価が85%以上であり、いずれの項目も前年度より増加している。
- 3-(3)「先生は、子どもの意欲を大切にしている」の肯定的評価は、前年度77%から88%と10ポイント超増加している。

②地域の評価

- 当該2項とも肯定的評価は、前年度同様80%以上である。
- 2-(1)「学校行事の内容は充実している」の否定的評価は、今年度0%であった。
- 2-(2)「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」の否定的評価は、前年度6%から今年度12%に増加している。

③生徒の評価

- 当該3項目の「学校行事は楽しい」「学校行事は達成感がある」「先生は生徒の意欲を大切にしている」の生徒全体の肯定的評価は、前年度同様に85%以上である。否定的評価は、前年度は全項目で10%だったが、今年度はいずれも一桁に減少している。
- 全3項目の肯定的評価は、学年別の評価においても前年度同様に全学年で80%以上である。

④保護者と地域と生徒の評価の比較

- 今年度は、学校行事への参観に際し、感染防止対策をとりながら制限が緩和された状態で開催され、保護者、地域、生徒で肯定的に高い評価となっている。

(4) キャリア教育について

①保護者の評価

- 3項目全てについて、肯定的評価は前年度 49～60%から今年度 57～75%に増加している。「わからない」の割合は、前年度 24～41%から今年度 18～27%と減少しているが依然として多い。
- 4-(1)「本校はキャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている」では、前年度「わからない」が 41%であったが、今年度は 27%に減少している。
- 4-(2)「本校は子どもの進路や将来の仕事について、考える授業がある」の肯定的評価は、前年度 60%から今年度 75%に増加している。
- 4-(1)と 4-(3)「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の2項目において、否定的項目が 16%と 19%であり、授業以外でのキャリア教育の取組について保護者が把握していない状況を反映しているのか、あるいは、さらなる指導や情報提供が望まれているのではないかと考える。

②生徒の評価

- 3項目全てについて、生徒全体の肯定的評価は 80%未満である。学年別では、4-(2)学校の授業と 4-(3)情報提供について、3年生では肯定的評価が 80%以上で、1、2年生より肯定的評価が高い。
- 4-(1)「私は、キャリアパスポートに書いた目標について考え行動している」で、生徒全体の肯定的評価は、前年度 70%から今年度 56%と減少している。
- 4-(1)の2年生の肯定的評価と否定的評価は 47%、43%と評価が二分している。3年生の否定的評価は、前年度 17%から今年度 35%と増加している。
- 4-(1)現2、3年生が昨年1、2年生時のアンケートとの比較では、肯定的評価については、現2年生では 68%から 47%に、現3年生では 65%から 52%に減少し、否定的評価については、現2年生は 31%から 43%に、現3年生は両年度とも 35%であり、2、3年生のキャリア目標に対する自己評価が低い傾向がみられる。
- 4-(2)「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」では、現2、3年生が昨年1、2年生時のアンケートとの比較では、肯定的評価については、現2年生は 66%から 70%、否定的評価は 25%から 29%、わからないが 8%から 2%で、キャリア教育の授業を評価する素地はできている傾向がある。コロナ禍において、職業体験などの機会の差も影響している可能性があると考ええる。
- 4-(3)「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」では、学年別の肯定的評価が、1年生 65%、2年生 69%、3年生 81%と学年が上がるごとに増加している。

③保護者と生徒の評価の比較

- 肯定的評価について、前年度と比較して保護者も生徒ともに増加しているが、全ての小項目で 80%未満であり、キャリア教育はこれからの浸透が待たれる。

(5) 教職員（先生）について

①保護者の評価

- 当該2項目（5-（1）「本校は、ていねいに指導している。」と5-（2）「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」）共に『肯定的評価』は昨年度同様に全体で70%を超えており、先生に対する信頼度が安定的に高いが、一方で5-（2）の『否定的評価』は23%と、前年度を8ポイント悪化している面も見られる。

②生徒の評価

- 当該2項目の『肯定的評価』には、16ポイントの差がみられている。
- 5-（1）「先生たちは、生徒にていねいに指導している。」は89%とかなり高い『肯定的評価』となっている。
- 5-（2）「先生たちは、生徒が相談しやすい。」の『肯定的評価』は73%と5-（1）に比べて低い。なお、2・3年生は67%、1年生は81%と、学年によりややばらつきがある。

③保護者と生徒の評価の比較

- 先生の指導については保護者の回答には「分からない」が13%みられるため、生徒と保護者の『肯定的評価』には10ポイント強の差があるが、相談のしやすさについては大きな差異はなく、親子で同じような印象を持っていると言える。

(6) 全般について

①保護者の評価

- 6-（1）「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の『肯定的評価』は86%と高い評価であるが、昨年に比べ『わからない』が6ポイント減少した分『否定的評価』が増えている。
- 6-（2）「本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある。」は『肯定的評価』が6ポイント減り72%であった。
- 6-（3）「子どもは、家庭で宿題やeラーニングなどで学習している。」は『わからない』が減り『肯定的評価』が7ポイント上昇の70%となった。
- 6-（4）「本校の教育活動は、子どもの成長につながる。」は昨年に比べ『肯定的評価』62%と20ポイント評価を下げた。
- 6-（5）「本校は、近隣の（幼稚園）小・中学校で構成する「学び舎」の（幼稚園）小学校に行ったり、（幼児）小学生が来たりする機会がある。」は昨年に比べ『わからない』が5%で37ポイント減り、『肯定的評価』が90%と55ポイントも評価を上げた。
- 6-（6）「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の『肯定的評価』は72%となり昨年度より6ポイント減少している。

②生徒の評価

- 6-（1）「学校生活は、楽しい。」の『肯定的評価』は88%、6-（2）「学校生活は、達成感がある。」は77%で、学年が上がるにつれ『肯定的評価』が減少している。
- 6-（3）「私は、家庭で宿題やeラーニングなどで学習をしている。」は全体で30%が『否定的評価』となり、学年が上がるにつれ評価が低くなっている。
- 6-（4）「私は、塾で学習している。」は1年生48%、2年生62%、3年生83%と学年が上がる

につれ通塾率が高くなっている。

- 6-（5）「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。」は『肯定的評価』が17ポイント増の33%となり、その分『わからない』が減少したが、『否定的評価』は昨年とほぼ変わらず58%と評価が低い。
- 6-（6）「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」は1・2年生は『肯定的評価』が70%を超えるが、3年生は56%に下がる。

③保護者と生徒の評価の比較

- 学校生活について、保護者も生徒も評価が高い。学年が上がるにつれ評価が低くなる傾向があるが、全体的には楽しい学校生活を送っていることを示している。
- 学び舎の小学生との交流について、少しずつ交流の機会もコロナ渦前に戻りつつあり、保護者の評価は急上昇したが、生徒の『肯定的評価』は低いままである。

（7）部活動について

①保護者の評価

- 7-（1）「部活動は、子どもにとって楽しい。」の『肯定的評価』は84%、7-（2）「部活動は、子どもにとって達成感がある。」の『肯定的評価』は80%と高評価であった。

②生徒の評価

- 7-（1）「部活動は、楽しい。」、7-（2）「部活動は、達成感がある。」の『肯定的評価』は、3年生でやや下がるが全体では80%を超え、昨年度より5～10ポイントほど評価を上げている。

③保護者と生徒の評価の比較

- 保護者・生徒共に評価を上げ、コロナ渦以前の充実した部活に戻ってきていることが伺える。

（8）情報提供について

①保護者の評価

- 当該4項目のうち3項目は『肯定的評価』が90%前後である。
- 8-（1）「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」、8-（2）「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」は、前年同様に90%の『肯定的評価』を得ている。
- 8-（3）「「学び舎」の区立（幼稚園）小学校について情報が提供されている。」は23%が『わからない』で10ポイント改善されたものの、『否定的評価』が25%で昨年より7ポイント評価を下げている。
- 8-（4）「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる。」の『肯定的評価』は87%で、昨年度より22ポイント上昇した。

②地域の評価

- 3-（1）「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。」は93%の『肯定的評価』であった。
- 3-（2）「学び舎」の活動について、情報が提供されている。」の『肯定的評価』は88%で昨年度より9ポイント増加した。

- 3-（3）「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。」については『わからない』が12ポイント減の27%まで改善したが、『肯定的評価』は62%とやや低い評価となっている。
- 3-（4）「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。」の『肯定的評価』は昨年度より26ポイント減の61%であった。

③保護者と地域の評価の比較

- 保護者は学校に行って生徒の様子を見る機会が増えたものの、地域はまだ行く機会が少なく、あまり様子を知ることができない状態が続いている。

（9）学校運営について

①保護者の評価

- 2項目ともに、「わからない」が24%と高いため、『肯定的評価』は65%前後である。
- 9-（1）「本校は、保護者に指導の重点を伝えている。」の『肯定的評価』は、昨年から横ばいの65%であった。
- 9-（2）「本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる。」の『肯定的評価』も、昨年から横ばいの67%である。

②地域の評価

- 4-（1）「学校の重点目標が明確である。」の肯定的評価は77%となり、昨年度より17ポイント減少している。
- 4-（2）「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している。」の肯定的評価は81%であった。

（10）家庭と学校の連携について

①保護者の評価のみ

- 当該3項目とも昨年に比べて、『肯定的評価』増加している。
- 10-（1）「私は、学校公開にすすんで参加している。」は昨年度より4ポイント増加し66%の『肯定的評価』であった。
- 10-（2）「私は学校行事、PTAや地域主催の行事などに進んで協力している」の『肯定的評価』は20ポイント増の81%に改善した。
- 10-（3）「私は、今年度の学校の指導の重点を理解している。」の『肯定的評価』は昨年度より7ポイント増加し55%となった。

（11）地域との連携について

①保護者の評価

- 当該3項目とも「わからない」が昨年から大きく減少している。
- 11-（1）「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の『肯定的評価』は75%で、昨年より20ポイント上昇している。
- 11-（2）「本校は、地域の活動に協力的である。」の『肯定的評価』は82%と、昨年より18ポイント上昇している。

- 11- (3)「本校は、地域に情報を提供している。」の『肯定的評価』は69%とやや低めであるが、昨年より13ポイント上昇している。

②地域の評価

- 5- (1)「地域の人や施設を教育活動に活かしている。」の『肯定的評価』は77%となり、昨年より9ポイント上昇している。
- 5- (2)「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている。」の『肯定的評価』は43%と低く、「わからない」が35%を占めている。
- 5- (3)「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている。」の『肯定的評価』は53%、「わからない」が昨年より7ポイント増え31%を占めている。

(12) 学校の安全性について

①保護者の評価

- 12- (1)「本校は、安全な学校づくりを進めている。」の『肯定的評価』は5ポイント増加し、88%である。
- 12- (2)「本校が避難訓練やセーフティ教室などで子どもに関する指導をしている。」の『肯定的評価』は18ポイント増加し、95%である。
- 12- (3)「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。」の『肯定的評価』は4ポイント減少し、71%である。

②地域の評価

- 6- (1)「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の『肯定的評価』は100%である。
- 6- (2)「学校は、安全性を高めようと地域と協力している。」の『肯定的評価』は昨年より6ポイント増加し89%である。

(13) 八幡中学校 独自項目

①保護者の評価

- 当該7項目の内6項目が、前年に比べて『肯定的評価』が上昇している。
- 13-(1)「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協働して子どもを育てている」の『肯定的評価』は12ポイント増加し、79%である。
- 13-(2)「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある集団として成長している」の『肯定的評価』は4ポイント増加し、82%である。
- 13-(3)「本校では授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の『肯定的評価』は5ポイント増加し、77%である。
- 13-(4)「通知表に評価されていることは納得できる」の『肯定的評価』は横ばいの77%である。
- 13-(5)「八幡中学校は「確かな学力育成する学校」として、(中略)学習する機会を提供していることを一つでも知っている」の『肯定的評価』は8ポイント増加し、93%である。
- 13-(6)「私は保護者会にできるだけ出席している」の『肯定的評価』は7ポイント増加し、87%である。
- 13-(7)「学校と保護者の十分な対話の場がある」の『肯定的評価』は4ポイント増加し、77%である。

る。一方で『否定的評価』も20%と高い。

②地域の評価

- 7-(1)「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協力して子どもを育てている」の『肯定的評価』は昨年より9ポイント減少し、85%である。

③生徒の評価

- 8-(1)「朝の読書活動をすることで、気持ちを落ち着かせることができる」の『肯定的評価』は72%と昨年より7ポイント減少し、否定的評価は21%である。
- 8-(2)「自分の意見が活かされていると感じている」の『肯定的評価』は59%、『否定的評価』は27%である。
- 8-(3)「通知表の評価は納得できる」の『肯定的評価』は83%と昨年より5ポイント増加している。
- 8-(4)「先生はだれに対しても平等に接してくれる」の『肯定的評価』は71%である。学年が上がるにつれて『肯定的評価』の割合は減少している。
- 8-(5)「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある」の『肯定的評価』は88%と昨年より6ポイント増加している。
- 8-(6)「英検、漢検、数検などの検定を1つ以上受検している、または受検しようとしている」の『肯定的評価』は横ばいの74%、『否定的評価』は22%である。
- 8-(7)「学校の放課後補習教室や（中略）など学習する機会を設けられていることを1つでも知っている」の『肯定的評価』は5ポイント減少し、84%である。
- 8-(8)「家庭内で進路や将来の仕事について話している」の『肯定的評価』は横ばいの76%である。
- 8-(9)「私は自分から先生へ進路や将来の仕事について相談している」の『肯定的評価』は横ばいの28%、『否定的評価』は5ポイント悪化し、69%である。
- 8-(10)「貸し出し用タブレットを自分の学習のために役立てている（ただし、学校で使っているソフトやアプリは除く）の『肯定的評価』は64%、『否定的評価』は31%である。

4 昨年度の評価で改善・努力した点

(今年度、改善・努力してきた点)

【学校生活について】

新型コロナウイルス感染症に対する社会情勢を鑑み、現在も校内での防止対策は日々行いながら生徒の安全を第一と考えたうえで、可能な限り学校生活の更なる充実を目指してきた。

学校関係者評価アンケートにおいて「学校生活は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は88.0%、また、「学校行事は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は87.0%であり、どちらも高い数値であった。

限られた時間や範囲の中で楽しく、前向きに取り組んでいる姿勢があると捉えることができる。また保護者の同様の項目である「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は86.0%、「学校行事は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は89.0%と、生徒と同様に高い数値であった。長きにわたり、制限のある学校生活を送っていながらも、本校の教育活動に一定の理解を示してくださったことは大変ありがたいことである。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○生徒の安全を第一に考えた学校運営。

- ・毎日の健康観察（検温）、マスク着用、手洗い慣行。
- ・換気の徹底、教職員による消毒活動、及び全クラスに空気清浄機とCO2モニターの設置。
- ・施設危険個所の定期的な点検と早期対応

○教育相談の充実

- ・校内特別支援委員会において、専門家をふまえた生徒理解のための研修。
- ・スクールカウンセラーや外部機関との連携を視野に入れた対応の検討。
- ・Q-U調査の結果分析。個々の生徒に合った指導方法・対応の確認。生徒の状況の情報共有。個々に適した指導や働きかけの確認。

○生徒の自治活動の奨励

- ・「上級生を見習う」を基本に、生徒たちが自主的に取り組む活動の助言・支援。

○学習指導の充実

- ・研究テーマを踏まえて、年間一度以上の自己研修授業を実施。
- ・ICT機器の効果的な活用に向けた校内研修の充実

【学習指導について】

学習活動においては、コロナ不安による自宅待機をしている生徒に対するオンライン授業の実施等、教職員の努力と保護者の理解を得ながら学びを止めない学習指導を進めてきた。

また、GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT機器を効果的に活用した授業展開を行うとともに、指導技術向上に向けての校内研修を実施してきた。

このような状況の中、学校関係者評価アンケートにおいて「先生は、映像やタブレットなどICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」の生徒の肯定的評価は86.0%となり、昨年度の同様の項目と比べ、さらに5ポイント上昇している。また、協働的な学びの充実を図ったことで、「自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中でとっている。」の生徒の肯定的表は93.0%と高い結果となり、昨年度の同様の項目と比べ、こちらも5ポイント上昇している。教員の授業改善の努力が生徒

に伝わっていることが分かる一方で、保護者の同様の数値は52.4%、55.2%であり、生徒との結果に開きがある。これは、保護者が授業を直接観る機会がないことが一因と考えられる。同質問での「分からない」の回答が約30%となっている。公開授業は実施されてきたが、数値の変化が昨年度と変容が見られなかったため、令和5年度は改善に向けての方策を講じていく。

また、学び舎の教育活動をできることから再開した。今年度は2回の合同研究授業、中学校での小学校体育の実施、小学生を招いての部活動体験を行った。学校関係者評価において「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。」の保護者に対する肯定的評価は90.0%となり、昨年度の同様の項目と比べ、54.6ポイント上昇した。一方で生徒に対する同様の項目は、昨年度と比べて16.2ポイント上昇しているが、肯定的評価は33.0%となっている。生徒の意識ではまだまだ交流できていないということが読み取れる。令和5年度の取組を、更に充実させたものにしていく。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○校内研修

- ・教員の授業力向上、ICT機器の活用、オンライン授業 他。
- ・全教員によるPISA型読解力の育成に向けた研究授業の実施。

○少人数・習熟度別学習指導（数学・英語）、チームティーチング（理科・英語）による授業。

○授業時間以外の学習の機会の提供

- ・放課後補習、土曜講習、検定対策講習、教師による朝・放課後の個人学習指導

○学び舎小学校との連携

- ・学び舎研修会
共通テーマ「PISA型読解力の育成」を軸にした、研究授業及び研究協議会の実施。
- ・学習習得会議の実施。

学習習得確認調査の結果を基にした小中の枠を超えた、学習課題の検討と指導方法の共有。

○家庭学習をする生徒のためのオンライン学習指導。

【地域との連携】

地域との連携については未だ十分に行うことができていないのが現状であるが、地域の方々の支援をいただきながら、いくつかの地域行事を実施することができた。そのため、地域との連携について（保護者）の項目では、「地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の肯定的評価は75%、「地域の活動等に協力的である。」の肯定的評価は82%となり、昨年度と比較してそれぞれ19.5ポイント、17ポイント上昇した。今後も社会情勢を鑑みながら、可能な限り地域との連携をとり続けていく。

以下は今年度学校として取り組んできたり、支援を受けたりしたことである。

○C組家庭科授業支援

○地域と協働した避難所運営の実施

○2つの地域行事にボランティアとして生徒が参加

○検定対策講習での受付作業や検定の試験監督業務。

○部活動ステップ活性化委員会での各部活動の現状確認報告及び部長との懇談会。

○STEP及び部活動における指導。

5. 学校関係者評価委員会としての提言

(1) 学習指導について

生徒については、5項目のうち4項目が『肯定的評価』85%以上で、かつ前年度の割合を上回る素晴らしい結果となった。4に記載の通り、校内研修による教員の授業力の向上、少人数・習熟度別学習指導、家庭学習をする生徒のためのオンライン学習指導など、コロナ禍ではあるが学習面に関してできる限り努力をしてきたことが評価されているものと思われる。生徒のために、次年度も引き続きその努力を続けていただきたい。

保護者については、4項目すべてにおいて『肯定的評価』が前年度の割合を上回ったものの、生徒の結果と比べるとまだ改善の余地は残されている(30%前後を占めていた「わからない」が8~26%の範囲に大きく減少しているものの、まだ高めの数値である)。来年度も、保護者会や学校公開といった活動により、生徒のためにより良い学習指導を行っている姿を保護者に理解してもらえるよう、今後も努力をしていただきたい。なお、引き続きコロナ禍ではあるものの、世の中が徐々に以前の日常生活に戻りつつあることも考慮すると、保護者会や学校公開だけでなく、行事の復活などによる保護者が来校する機会の増加をうまく捉える工夫なども考えられる。

(2) 生活指導について

保護者の『肯定的評価』は経年増加傾向にあり、2-(2)については86%になった。生徒の評価も3項目とも80%以上であった。こうした結果は、「思考力を育む」指導方針のもと、学習指導のみならず生活指導においても、日ごろからの思考や自主性を育む学校側の指導の結果と言える。

なお、生徒の『肯定的評価』は、学年が上がるにつれて減少傾向にある。これは思春期特有の自我が始めていることと推察される。こうした中で、「悪いことに対して注意する」従来の生活指導の考え方から、「良いところをほめて伸ばし、自己肯定感を高める」といった生活指導への取り組みへは大変興味深いものである。引き続き、継続的な指導を期待したい。

(3) 学校行事について

保護者の『肯定的評価』は、コロナ禍当初は、以前同様の行事ができないために若干減少していたものの、今年度はいずれの項目も上昇し85%以上となった。生徒の『肯定的評価』は引き続き高く、学校行事を通じて生徒の成長を促すよう、生徒の意欲を大事にした指導をしてもらいたい。

地域の2-(2)「地域への配慮」の『否定的評価』が若干増えているが、これは「行事をやってほしい」という強い思いがアンケート結果に表れたものとも考えられることから、次年度の結果をみてから判断したい。

(4) キャリア教育について

保護者の『肯定的評価』は3項目のうち2項目は55%前後、生徒も3項目のうち2項目は70%台(本校のほかの質問項目に比べると低水準)にある。この結果は、キャリア教育自体が手探りの状況下、現在の各種取り組みがキャリア教育と認識されていない面もあるのではないかと推察される。しかしながら保護者の『肯定的評価』は低水準だがいずれの項目も前年度を上回ってお

り、少しずつ浸透されている面も見られる。そうしたことから、まずは目先の数値にはこだわらずに、現在の取り組みを継続する中で学校の指導が保護者に徐々に浸透していけばよいと考える。なお、生徒の発達段階や各家庭事情もあり実施にあたっては難しい面もあるが、家庭で生徒と保護者が一緒に将来の進路や仕事について考える機会を設けるなどの学校からのしかけづくりも、キャリア教育の浸透のための一案と考えられる。

ただ、生徒の4-(1)「キャリア・パスポートに書いた目標について考え行動している」の『肯定的評価』が14ポイント減少して56%の水準になっているので、キャリア教育の取り組みが絵に描いた餅にならないよう、先生と生徒、保護者と生徒などの話し合う機会をうまくとらえて、生徒自身の目標を振り返ることなどにつなげることが望まれる。

(5) 教職員（先生）について

さまざまな設問から教職員は生徒との関係性の構築に努力をされていることがうかがわれる。

「相談のしやすさ」について、保護者も生徒も『肯定的評価』が70%程度と相応な水準だが、本校の他の項目と比べるとやや見劣りする結果である。これは教職員が多忙を極めるために生徒が遠慮がちになっている面もあるのではないかと推察される。そうしたなかで「丁寧な指導」に関する生徒の『肯定的評価』は85%と高いことから、生徒一人ひとりに対して丁寧に話を聞くなどの対応が生徒の信頼を獲得している状況がうかがわれる。引き続き、生徒の機微を見逃さないよう、親身な対応をお願いしたい。

(6) 全般について

「学校生活の楽しさ」については、保護者も生徒も『肯定的評価』は微増で、いずれも85%強と高水準である。一方、「達成感」については、保護者も生徒も『肯定的評価』は減少傾向にある。これは、久しぶりの学校行事の実施などにおいて、行事の成功や効率性を優先するために教員主導で進めざるを得なかった状況の結果とも考えられる。次年度は生徒主導で進めることで、達成感や成長につながることを期待したい。

(7) 部活動について

保護者も生徒もいずれの項目も『肯定的評価』はいずれも増加し、80%以上と高水準となり、コロナ禍以前の充実した部活動に近づいてきている様子がうかがわれる。引き続き感染対策に十分に留意をした上での部活動をお願いしたい。また、世の中の方向性として、部活動の外部委託化の傾向がみられるが、学校と委託先とでしっかりと連携を取り、生徒に不利益が生じないようにお願いしたい。

(8) 情報提供について

様々な便りやホームページなどでの情報提供については、長年の努力が実り、一昨年度から保護者・地域ともに初めて80%を超えている。保護者については昨年度も今年度も90%前後であり、きちんと情報が伝わっている様子がうかがわれる。引き続き、様々な機会を通じて広報活動・情報提供に力を注いでもらいたい。

(9) 学校運営について

保護者について、一昨年度は「学校の教育方針を伝えている」の肯定的評価が80%を超えていたが、昨年度は「指導の重点を伝えている」との設問にかわり65%と減少、本年度も横ばいであった。「指導の重点」ということが分かりにくいのかもしれないので、保護者会などを通じて、わかりやすく伝えてもらいたい。地域については、引き続き地域との対話により、近隣との良好な関係性の構築を図ってもらいたい。

(10) 家庭と学校との連携について

昨年度と同じく、保護者の9-(1)「本校は指導の重点を伝えている」と10-(3)「私は指導の重点を理解している」の『肯定的評価』に10ポイント強の開きがある。保護者の10-(2)行事などにすすんで協力しているの『肯定的評価』が20ポイントも上昇している機会を捉え、様々な場面で、さらにわかりやすく伝える努力を行ってもらいたい。

(11) 地域との連携について

保護者については3項目すべてにおいて『肯定的評価』が前年度の割合を上回った。特に11-(1)(2)の地域との連携は20ポイント前後も上昇しており、コロナ禍においても地域との連携の行事が徐々に再開していることを示している。引き続きこうした活動について、保護者や地域へ認知向上を図ってもらいたい。

(12) 学校の安全性について

改築・耐震補強工事により、施設面の安全性が確保されている。また、日ごろの避難所運営訓練の実施なども評価されている。安全性には、施設・防犯・防災と、色々な要素が含まれるので、今後もそれぞれのきめ細やかな対策を継続してお願いしたい。

以上